愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	幼児と造形表現		
担当者(Instructors)	新實 広記	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

領域「表現（造形）」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。また、対面授業では実技を取り入れた講義を中心に行い、知識や技法を体験的に学ぶ。オンデマンド授業では、講義、調べごと学習を中心に行う。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で行う。造形活動や鑑賞活動において、ディスカッションおよびグループワークを取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	領域表現と造形	領域表現における造形について	□
第2回	幼児の遊びや生活における造形表現の実践例	幼児の遊びや生活における造形表現に関して、実践例を通して学ぶ	□
第3回	幼児造形の理解　幼児における造形表現の特徴	幼児造形の理解　幼児における造形表現の特徴を実践例と実技を通して理解する	□
第4回	幼児造形の理解　幼児における造形表現の発達	幼児造形の理解　幼児の造形表現に見られる発達段階の違いをさまざまな事例から学ぶ	□
第5回	幼児造形の理解　幼児における造形表現の心理	幼児造形の理解　幼児の造形表現に見られる心理を、子どもの造形作品の紹介を通して理解する	□
第6回	造形材料とその特質	造形材料とその特質を活かして表現方法を通して、体験的に学ぶ	□
第7回	造形のための用具と技法	造形のための用具の使用方法を実技を通して習得し、安全の配慮の方法も学ぶ	□
第8回	造形遊びの実践　色を楽しむ	造形遊びの実践　色を楽しむ活動の実践例を紹介しその方法を体験しながら、応用方法を考える	□
第9回	造形遊びの実践　形を楽しむ	造形遊びの実践　形を楽しむ活動の実践例を紹介しその方法を体験しながら、応用方法を考える	□
第10回	造形遊びの実践　イメージを楽しむ	造形遊びの実践　イメージを楽しむ活動の実践例を紹介しその方法を体験しながら、応用方法を考える	□
第11回	造形遊びの実践　素材を楽しむ	造形遊びの実践　素材を楽しむ活動の実践例を紹介しその方法を体験しながら、応用方法を考える	□
第12回	造形遊びの実践　自然を楽しむ	造形遊びの実践　自然を楽しむ活動の実践例を紹介しその方法を体験しながら、応用方法を考える	□
第13回	造形遊びの実践　協働と共感	造形遊びの実践　協働と共感を中心とした活動の実践例を紹介しその方法を体験しながら、応用方法を考える	□
第14回	幼児の造形表現と鑑賞活動	幼児の造形表現と鑑賞活動の方法と実践例を紹介し、実際に鑑賞活動を行う	□
第15回	領域「表現（造形）」の意義と課題	領域「表現（造形）」の意義と課題をこれまでの知識、体験をもとにまとめる	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

次回の授業を理解するために、毎回指示するキーワードとなる専門用語を予め調べておく。（２時間）授業内で学んだ内容を教科書や配布された資料で振り返り理解を深めておく。（２時間）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

各回の授業後に、授業理解を確認するためのレポート課題を実施する。レポートの内容を確認後、より理解を深められるような自主学習の方法の提案や資料を提供する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	幼児の造形表現の姿や、その発達を理解する。造形表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	幼稚園・保育所をはじめとする児童福祉施設で、造形表現を通して、子どもの発達に即した題材や指導を行うことができるか。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	幼稚園・保育所をはじめとする児童福祉施設で、造形表現活動を通して教育・保育に主体的、協働的に携わることができるか。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内に行う実技課題、課題レポート。オンライン授業は、授業振り返りの課題提出後、出席とする。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「幼稚園教育要領解説」（平成30年，文部科学省）	
2	「幼児造形の基礎-乳幼児の造形表現と造形教材-」　/ 萌文書林	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示　文部科学省）	
2	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
3		
4		
5		